

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：21601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00271

研究課題名(和文) 植民地・占領地の環境適応と生活科学 京都帝国大学戸田衛生学教室を中心に

研究課題名(英文) Environmental Adaptation and Living Science in Colonies and Occupied Lands:  
Focusing on Kyoto Imperial University Toda Hygiene Classroom

研究代表者

中川 恵子(末永恵子)(Suenaga, Keiko)

福島県立医科大学・医学部・講師

研究者番号：10315658

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：戸田正三の思想と学問形成に影響をもたらしたヨーロッパ留学について新資料を得て、分析を進め、留学中の研究環境や人的交流、そして研究内容の解明を行った。その結果、戸田は、軍事目的の実用的な研究に従事することに積極的な意義を見出していた。これらの経験が、後にアジア太平洋戦争で医学者の戦争動員を指揮する戸田の思想形成に影響を与えたことを指摘した。

戸田正三の研究業績との関連で、満洲医科大学の医学者および軍とのつながりを指摘し、人体実験の供給の問題を論じた。また、戸田正三の弟子が、満洲医科大学の衛生学教室の教授を務めていた三浦運一である。三浦の研究室の業績を掘り起こし、その展開の軌跡を跡づけた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医学者の戦争協力については、アジア太平洋戦争期を中心に研究がなされてきたが、第一次世界大戦における医学者の軍事研究に注目した研究はほとんどなく、本稿は先駆的な意味をもっている。医学者が第一次世界大戦中に何を体験し、その経験をどう位置づけたのかを考察し、アジア太平洋戦争における戦争協力の背景を探る上で重要であるばかりでなく、「大学・科学者と軍事研究」の関係を考える上でも意義があると考えられる。

満洲医科大学の医学者および軍とのつながりおよび人体実験の供給の問題を論じた。また、戸田正三の弟子で満洲医科大学の衛生学教室の教授の三浦運一を中心に生活科学に関する業績を掘り起こし、その展開の軌跡を跡づけた。

研究成果の概要(英文)：1. We obtained new materials on study abroad in Europe, which had an impact on Shozo Toda's thought and academic formation, and proceeded with the analysis. As a result, Toda found positive significance in engaging in practical research for military purposes. He pointed out that these experiences influenced the thinking of Toda, who later led the mobilization of medical personnel in the Asia-Pacific War.

2. In relation to Shozo Toda's research achievements, he discussed the problems of the connection with the medical scientists of Manchuria Medical University and the military, and the supply of human experiments.

3. A disciple of Shozo Toda was Unichi Miura, who was a professor at the Department of Hygiene at Manchuria Medical University. I unearthed the achievements of Miura's laboratory and traced the trajectory of its development.

研究分野：近代史

キーワード：戸田正三 満洲 気候馴化 興亜民族生活科学研究所 植民地医学 アジア太平洋戦争 軍陣医学 731部隊

1. 研究開始当初の背景

本研究は、以下のようなふたつの研究の流れを背景としている。

(1) 日本の植民地医学に関する歴史研究の進展

日本の植民地医学研究においては、植民地・占領地のマラリア・コレラ、ペスト等の感染症対策の分野で研究蓄積が進んでいる。植民地に「文明の恩恵」をもたらす手段として日本の植民地支配を正当化する役割を負った近代医学の中で、特にその期待がかけられたのが、当時最先端の医学であった細菌学・寄生虫学の分野である。当然、歴史研究においても、感染症に焦点が当てられ、植民地における感染症対策が植民地社会に与えた影響や、戦後の衛生制度への連続などの豊富な論点が提出されてきた。また、植民地における細菌学・寄生虫学の医学者の営みについて、帝国主義との関係に注目した研究が数多く発表されてきた。

この研究史に大きな刺激を受けつつ、本研究は植民地医学研究に今まで無かった生活科学という分析対象を設定する。植民地での就労や占領地・戦地での軍事行動の前提となる生活科学は、当時においては感染症対策に劣らず重要視されていたからである。

(2) 科学者の倫理に関する議論の高まり

近年、科学者の倫理についての研究が、軍事研究との関連で高まり、「デュアルユース」(軍民両用の科学・技術)も論点として頻出するようになった。本研究の生活科学は、衛生学・生理学・栄養学・建築学等の非軍事の隣接領域を束ねた実践的総合科学である(図1)。しかし、例えば通常の衣服の改良策が軍服に転用されたように、軍事・民生相互に使える「デュアルユース」技術を生む科学でもあった。



図1: 生活科学の関連領域(於: 東亜民族生活科学研究所)

そうした「デュアルユース」問題を過去にさかのぼって考察するために生活科学研究を規定した歴史的・社会的条件はどのようなものであったか、また、その条件下で研究者はどう行動したのかを問う必要がある。もちろん、科学者を性急に断罪したり安易に擁護したりするのではなく、同時代の政治・社会をめぐる状況のなかに置き直し、歴史的な位置づけを行いたい。そうすることで、科学者の倫理の研究に参考資料を提供できると考える。

以上、植民地医学研究分野と科学者の倫理研究分野の研究史を背景に、植民地医学に対して、従来とは異なる生活科学という視点から切り込み、時代と科学研究のあり方を追究するのが、本研究である。

生活科学は、植民地での就労および占領地や戦地での軍事行動の前提となる基本的要件であり、植民地経営の成否や戦争の勝敗に関わる重要課題と考えられていた。そのことは、この課題に取り組んだ興亜民族生活科学研究所に対して、様々な機関から多額の研究費が補助されていることにも表れている(図2)。

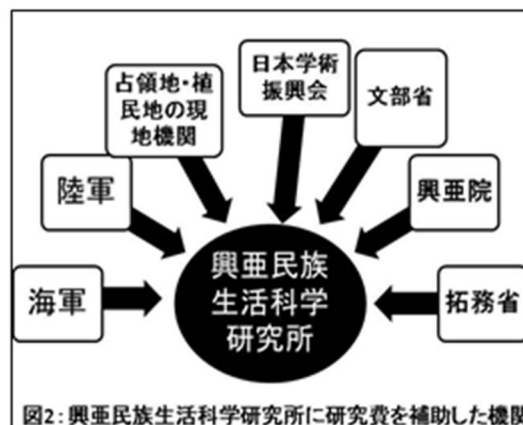


図2: 興亜民族生活科学研究所に研究費を補助した機関

生活科学は、植民地の経済開発・開拓移民事業・軍事作戦といかに関わってきたのか。この課題を生活科学の具体的中身に立ち入って検討することは、当時の植民地政策や占領地政策を考える上でも重要である。

上記の理由から、本研究の核心をなす学術的「問い」とは、「植民地・占領地の環境への適応をめざす生活科学はどのように成立し、いかに展開したのか、そしてそれは植民地・占領地統治といかに関係したのか」ということになる。

2. 研究の目的

近代日本における生活科学は、植民地・占領地拡大の歴史と結びついて発展してきた。本研究が対象とする戸田衛生学教室は、「満蒙開拓団」政策の形成と実施過程に深く関わり、農業移民のための労働服や住宅の開発を行ったが、さらに占領地が東南アジアへ広がると高温高湿環境に適応する衣食住の研究を展開した。このような生活科学の研究には、植民地や占領地の状況がさまざまな形で刻み込まれている。

この歴史的に検討することで、豊富な論点 例えば①生活科学が人々や地域社会に及

ばした影響、研究者の動員、戦後の連続と非連続などが導かれうる潜在性がある。

ところが、生活科学については根本的な検証はおろか、言及すらなされずに現在にいたっている。この忘れられた生活科学の歴史を日本近代史の中に位置付けることは、植民地医学の総合的理解に資するだけでなく、植民政策史や軍事史にも有益な情報を提供するものとする。

そうした現状をふまえて、本研究は、気候風土への適応のための生活科学について、その成立と展開の過程を跡づけながら植民地支配や戦争との関係を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

生活科学の成立と展開を社会的文脈の中に位置づけることを目的として、本研究では生活科学研究を推進した戸田衛生学教室の研究内容を政策への関与も含めて分析し、その生活科学と政治・社会との関係を検証することを旨とした。そのために文献実証の方法を用い、次の3点を課題として設定し取り組む予定であったが、コロナの影響で国内外の史料調査の多くは自粛せざるを得なかった。

#### (1) 生活科学研究の内容分析

まず、生活科学研究の内容を理解するために、戸田正三が主催した専門誌『国民衛生』全30巻収録の論文を読解・分析してその論点を整理した。

#### (2) 植民地政策への関与の実態解明

戸田衛生学教室による植民地政策への関与について解明するために、関連する一次資料の調査を、中国遼寧省瀋陽市の中国医科大学档案館・附属図書館、京大や金沢大の文書館、国立公文書館、国会図書館等で行う予定であったが、訪問できたのは、京大大学文書館、防衛省防衛研究室であった。近隣の図書館や複写や貸借サービスを活用しながら、資料収集をすすめた。

#### (3) 生活科学研究と植民地政策の関係解明

上記の史料を解析し、歴史的・社会的文脈の中に位置づけることを目指し、隣接する近代史研究を参照しながら、生活科学研究と現実の植民地政策の関係性を事実即して近代史の流れに位置付けているが、まだ草稿段階である。

### 4. 研究成果

(1) 京都帝国大学医学部の衛生学教室の教授戸田正三の思想と学問形成に影響をもたらしたヨーロッパ留学について新資料を得て、分析を進め、留学中の研究環境や人的交流、そして研究内容の解明を行った。その結果、戸田は、軍事衛生学の研究を「生きた学問」として明言し、軍事目的の実用的な研究に従事することに積極的な意義を見出していた。これらの経験が、後にアジア太平洋戦争で医学者の戦争動員を指揮する戸田の思想形成に影響を与えたことを指摘した。医学者の戦争協力については、従来アジア太平洋戦争期を中心に研究がなされてきたが、第一次世界大戦における医学者の軍事研究に注目した研究がほとんどなく、本稿は先駆的な意味をもっている。医学者が第一次世界大戦中に何を体験し、その経験をどう位置づけたのかを考察し、アジア太平洋戦争における戦争協力の歴史的背景を探る上で重要であるばかりでなく、現在鋭く問われている「大学・科学者と軍事研究」との関係を考える上でも参考となる論文である。第一次背下記大戦期のフランスでの医学研究が、帰国後の戸田の占領地・植民地の衛生研究を考える上で大事な要素である。この論文は、日本医史学会の第29回富士川游学術奨励賞を受賞した。

(2) 満洲における七三一部隊の非人道的人体実験の背景に、満洲医科大学の医学者と軍とのつながりや現地住民の蔑視があることを戸田正三の研究業績との関連で明らかにした。得られた成果は、「収奪された人体 満洲における医学と戦争」および、*"Bodies in the Service of the Japanese Empire: Colonial Medicine in Manchuria"* に詳述した。

(3) 京都帝国大学医学部の衛生学教室の教授戸田正三の弟子が、満洲医科大学の衛生学教室の教授を務めていた三浦運一である。三浦研究室の生活科学に関する研究業績を掘り起こし、その展開の軌跡を跡づけた。満洲の気候風土に密接に関係した地方病や衣食住に関わる医事衛生に関する研究や疾病を予防する啓発活動に関する資料を発見し、分析を行っているところである。一部は、資料集として刊行中である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Suenaga Keiko	4. 巻 19-24
2. 論文標題 Bodies in the Service of the Japanese Empire: Colonial Medicine in Manchuria	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Asia-Pacific Journal Japan Focus	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 末永恵子	4. 巻 22
2. 論文標題 資料紹介 増田知貞著「細菌戦二就テ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 戦争と医学	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 末永恵子	4. 巻 68-4
2. 論文標題 第一次世界大戦下における日本人衛生学者の軍事研究 - 戸田正三の欧州留学に注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 326-339
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 末永恵子	4. 巻 34
2. 論文標題 日中戦争期のコレラ防疫 防疫給水部と同仁会を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本植民地研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 未永恵子
2. 発表標題 石井部隊と軍用ワクチン
3. 学会等名 戦争と医学医療研究会定例研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 未永恵子
2. 発表標題 日中戦争期の日本軍占領地におけるコレラ防疫 - 同仁会と軍の関係を中心に
3. 学会等名 日本植民地研究会大会共通論題報告（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 未永恵子
2. 発表標題 衛生学者戸田正三の欧州留学 第一次世界大戦下の軍事研究に注目して
3. 学会等名 東北史学会山形大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 未永恵子
2. 発表標題 満洲医科大学の巡回診療
3. 学会等名 戦争と医学医療研究会第49回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 末永恵子
2. 発表標題 満洲医科大学の終焉と感染症対策
3. 学会等名 戦争と医学医療研究会第50回研究会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 吉中丈志編 (担当範囲：収奪された人体 満洲における医学と戦争) (担当ページ：261-282)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 561
3. 書名 七三一部隊と大学	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 235
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五)－中国占領地 同仁会第1巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 292
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五)－中国占領地 同仁会第2巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 270
3. 書名 外地「いのち」の資料集(二) 満洲医科大学 第2巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 310
3. 書名 外地「いのち」の資料集(二) 満洲医科大学 第3巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 100
3. 書名 外地「いのち」の資料集(二) 満洲医科大学 別巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 156
3. 書名 外地「いのち」の資料集(二) 満洲医科大学 第1巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 184
3. 書名 外地「いのち」の資料集(二) 満洲医科大学 第4巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 376
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五) - 中国占領地 同仁会 第7巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 369
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五) - 中国占領地 同仁会 第8巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 311
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五) - 中国占領地 同仁会 第9巻	



1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 434
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会2 第10巻	

1. 著者名 末永恵子編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 369
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会2 第12巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 309
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会2 第11巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 346
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会2 第13巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 55
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会 2 別冊	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 344
3. 書名 外地「いのち」の資料集(六)－中国占領地 同仁会 2 第14巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 453
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五)－中国占領地 同仁会第3巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 288
3. 書名 外地「いのち」の資料集(五) 中国占領地 同仁会 別巻	

1. 著者名 末永恵子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 417
3. 書名 外地「いのち」の資料集（五）－中国占領地 同仁会第4巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

第29回富士川游学術奨励賞「第一次世界大戦下における日本人衛生学者の軍事研究 戸田正三の欧州留学に注目して」(『日本医史学雑誌第68巻第4号』2022年12月掲載)

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関